

環境エネルギー対策特別委員会(9月10日) わしの恵子議員

積極的な太陽光の活用を

利用可能348万kWなのに 2020目標は37万kW

9月10日に環境エネルギー対策特別委員会が行われ、再生可能エネルギーの活用について現状と取組、目標などが報告されました。

計画達成への覚悟はあるのか

わしの恵子議員は「利用可能348万キロワットに比べても、2020年度までの計画では37万キロワット、ずいぶん消極的ではないか」「計画の達成でも相当の覚悟があるが具体的な見通しはあるのか」とたずねました。当局は「現在の実績が1.2%であり、2020年に10.6%を目標にしたが、いつまでに達成するかは数字ではない。8年でどれだけのばすかを考えると厳しい。市民や事業者にお願ひし、市もがんばりたい」と答えました。

原発ゼロに向け、いっそうの促進を

名古屋市として公共施設に設置することについての計画をただしたところ、「2020年までに1万キロにする。どこからというのはこれからの課題。環境局の中からやってみよう。今は環境事業所2か所に設置しているが、処分場跡地など広いところに設置したい」と答えました。わしの議員は「名古屋市は日照時間量が多い。市の施設で設置可能な場所を見つけて促進を」と求め、「まだまだ甘い。原発ゼロが市民の声。市長は脱原発も言っている。早くできるようにすべきだ」と市の姿勢を厳しく批判しました。



再生可能エネルギー

	利用可能量	導入実績(2011年度末)		2020目標	特徴・備考
		件数	規模		
太陽光	3,480,000kW	8,997	41,442kW	64,000件	太陽光エネルギーを直接電気に変換。名古屋市は日照時間、日射量に恵まれた地域で、利用可能性は高い。
風力	-	10	18kW	-	発電には5.5m/秒が必要だが市の平均は4.6m/秒。2~3m/秒でも発電できる小型システムも開発中
水力	-	なし	なし	-	落差や水量が少なく、水利権の問題をはじめ、採算性から見て困難
地熱	-	なし	なし	-	安定供給可能だが、利用可能場所が偏在。熱水系地熱資源がない
太陽熱	232,224GJ	99	2,432GJ	8,000㎡ 17,280GJ	太陽エネルギーの40%を熱で利用。設備が比較的安価。名古屋市は日照時間、日射量に恵まれた地域。
工場排熱など	980,000GJ	13	73,492GJ	-	工場排熱→下水が持つ熱を利用。地域冷暖房などの利用できるが、りよばしょが離れていたり設備経費が高い。
バイオマス	612,000GJ	4	572,828GJ	-	生ごみ、木くず、動物の排泄物などを利用。燃焼で発電や熱利用のほか燃料化に。清掃工場での発電がほとんど

